日本医療研究開発機構（AMED）による
「個別リスクに基づく胃がん検診提供構築に関する研究」ニュースレター

第１号 ２０１８年４月

J-SASG リスク別の胃がん検診研究
Japan Stratified Approach to Screening for Gastric Cancer

ドクター F（エフ）のつぶやきレター

Dr.F ?

研究代表者ドクターＦ（エフ）あいさつ

平成２９年から開始した日本医療研究開発機構（AMED）による個別リスクに応じた胃がん検診にご参加いただきありがとうございました。研究内容についてご説明する際にお約束したように、参加いただいた方にはがんに関する情報をお知らせすることにしておりましたが、スタッフとも相談してあまり堅苦しくなく、どちらかというとぐっとくだけた形のものにしようということになり、こんなニュースレターを作ってみました。

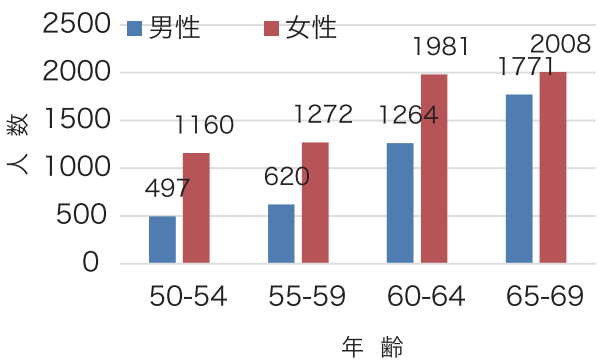
表題にあるドクターＦは、シャイで口下手であがり症の研究代表者深尾に代わって大胆で情熱的に、しかも分かりやすく情報をお伝えするとのことなので、ご期待のほど、何卒よろしくお願いいたします。

ドクターFの略歴
昭和25年　仙台生まれ
昭和51年　東北大学医学部卒業
昭和54年　東北大学医学部第3内科医員
平成 元年　東北大学医学部公衆衛生学助教授
平成 8年　山形大学医学部公衆衛生学教授
平成23年　山形大学理事・副学長
平成28年　宮城県対がん協会研究局長
　　やまがた健康推進機構研究監
現在　日本医療研究開発機構研究費による
「個別リスクに基づく胃がん検診提供体制
　　構築に関する研究」研究代表者

10,573

宮城県内研究参加者が １万人を超えました

平成２９年度の研究参加状況



本研究は、宮城県対がん協会が実施するＸ線検査による胃がん検診を受診される方を対象として平成２９年４月から研究参加の登録を開始しました。

参加のお声がけは仙台市、栗原市、登米市、大崎市、石巻市、加美町、松島町、山元町、富谷市の９市町６１会場で行いました。会場では、お忙しいところお手数をおかけしましたが、皆様のご理解ご協力のおかげで本年２月末までに10,573名（男性4,152名、女性6,421名）の方に登録いただきました（左図）。この場を借りて深く感謝いたします。

参加いただいた方には３０年度、３１年度の２回連続で検診を受診していただくこと、最近の健康状態などに関するアンケート調査にお答えいただくことの２点についてお願いしてしておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

なお、３０年度には、栗原市、登米市及び山形県の一部地域で参加を募り、参加者の総数を15,000名にしたいと考えております。

生存率って？

がん10年生存率が公表されました

ドクターFのひとくち講座①

今回は、がんの生存率についてのお話です。国立がん研究センターは2月28日、がん患者の部位別の10年生存率を公表しました。この報告は、全国のがん専門医療機関で2001年～2004年に診断された症例約　57,147例について解析したものです。全部位の10年生存率は55.5%で、部位別にみると次のようになりました。

生存率	部　位（　）：%
90%以上	前立腺（92.4）
70－89%	甲状腺（86）、子宮体（79）、乳（82.8）、子宮頸（69.8）
50－69%	大腸（65.9）、胃（64.3）、腎（62.4）など
30－49%	卵巣（44.5）、肺（30.4）
30%未満	食道（28.4）、胆のう胆道（15.2）、肝（14.6）、膵（5）など

どうです？一口にがんの生存率といっても、前立腺がんの92.4%から膵がんの5%まで、部位によって数値がこんなに違うのをご存知でしたか。

がんは、その進行度に応じて4つのステージに（▶に解説）分類されますが、そのもっとも進行度が低いステージ1の生存率をみると、胃がんでは89.7%、大腸がんでは 90.8%、子宮頸がんでは89.1%と高い数値で、がん検診による早期発見をお勧めする根拠になっています。しかし、ステージ1でも、膵がんは29.1%、肝がんは25.7%で、とても早期発見をお勧めする数値とは言えません。肝がんについては 肝炎ウイルスの予防対策が 奏功して順調に死亡率が減ってきましたが、　膵がんは、診断や治療が難しいため死亡率が減る気配が見えないのです。今後さらにがんの生存率を上げるためには、胃がんのようにステージ1の生存率が良いがんは、がん検診をどんどん受けていただくことが大事なので、そのカギはこれを読んでおられる皆様が握っていますが、膵がんのようなステージ1の生存率が低いがんについては、診断や治療など医療技術のさらなる進歩が　カギを握っているということになります。↗

がんに関する不安やお悩みについてのご相談は
宮城県がん総合支援センター
TEL:022-263-1560
9:00～16:00 土・日・祝日は除く
（公益財団法人 宮城県対がん協会内）

さて、ここで質問。

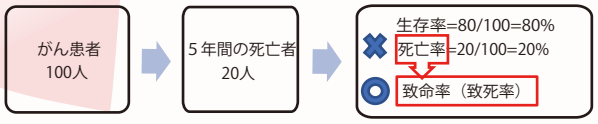
○次の文が正しいかどうか答えなさい

生存率が80%なら死亡率は20%である。

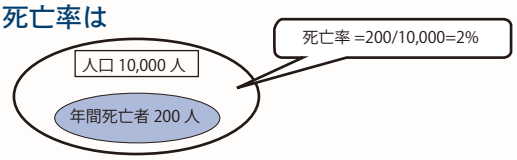
生存率は、ある病気にかかった人がある期間たった後何%死なずに生き残ったかを表す比率です。 例えば、100人のがん患者の治療後5年間に20人の患者が亡くなったとすると生き残ったのは80人なので、生存率は80/100で80%ということになります。20人が亡くなったのだから、死亡率は20/100で20%と言いたくなりますが、この値は死亡率とは言わずに致命率（致死率）と言います。じゃあ死亡率というのは何かといいますと、ある集団（国や町の人口）の中で1年間に死亡した人の割合のことを言います。例えば人口10,000人の町である年に200人の方が死亡したとすると、200/10,000＝2/100なので死亡率は2%ということになります。

ですから質問の答えは「正しくない」というわけです。

生存率の対義語は死亡率ではありません



ちなみに死亡率は



▶がんのステージとは？

がんの進行度合いは、がんの大きさや浸潤度（病変の深さ）、リンパ節転移、多臓器への遠隔転移の3つの因子について評価して4つのステージに分類されます。胃がんの場合、内側から粘膜、粘膜下層、筋層、漿膜（しょうまく）下層、漿膜の5階建てで構成されている胃の組織の中で、病変が粘膜下層を超えていないがん（いわゆる早期がん）のほとんどは、治療成績が極めて高いステージ1のがんです。また、ステージ1でも、軽度のリンパ節転移がないものをステージ1A、あるものをステージ1Bに分けていますが、ステージ1Aは、内視鏡による治療で治る可能性があります。ステージ1のうちにがんを見つけるには、いうまでもなく胃がん検診が有効で、日本消化器がん検診学会の全国集計によると、平成26年度に胃がん検診で発見された症例3.559例のうち、74%（2.645例）がステージ1であり、さらに65%（2.341例）がステージ1Aでした。

本研究に対するお問い合わせはこちら

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）
J-SASG リスク別の胃がん検診研究
Japan Stratified Approach to Screening for Gastric Cancer

宮城県対がん協会研究局 AMED研究事業担当
〒980-0011 仙台市青葉区上杉5丁目7番30号
TEL:090-1496-0176（担当者直通 月～金 9:00～17:00 土･日･祝日除く）
E-mail:amed-jim@miyagi-taigan.or.jp　URL: http//:j-sasg.jp

革新的がん医療実用化研究事業
個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究

本研究は、日本医療研究開発機構研究費による 「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」（課題番号：16817317　研究代表者：深尾彰）の一部として行なっています。